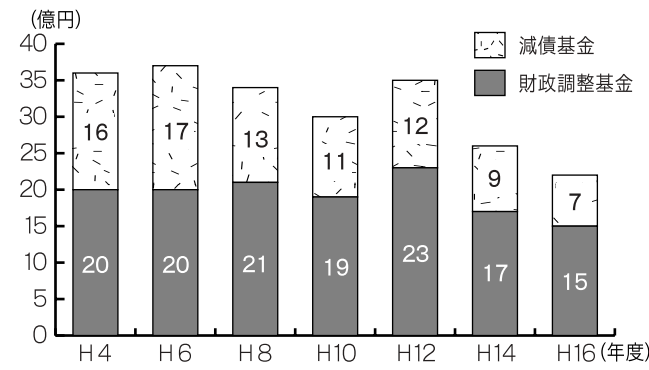


ゆとりが無い市財政

第2回

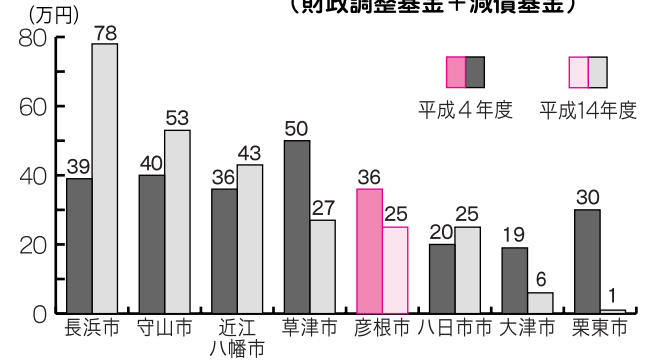
彦根市の置かれている財政状況について、5月15日号では市税や地方交付税の状況を中心にお知らせしました。
今回は、市にとって貯金である基金や、借金である市債について、その金額や最近の推移について、他市の状況を交えながらお伝えしたいと思います。

グラフ1 基金残高の推移(財政調整基金+減債基金)



彦根市では、市税収入が低迷する中、この数年この基金を取り崩すこととでなんとかやりくりを行ってきた。しかし、財政調整基金と減債基金を合わせた残高は、平成4年度の36億9千万円から、平成16年度末には、22億1千万円にまで落ち込んでしまっ見込みです(グラフ1)。

グラフ2 市民1人当たりの基金残高の比較(財政調整基金+減債基金)



長浜市の78万円を最高に本市は5番目となっています(グラフ2)。
今後さらに厳しい財政状況が続くと考えられますので、この預貯金もすぐに底をついてしまうことが予想されます。

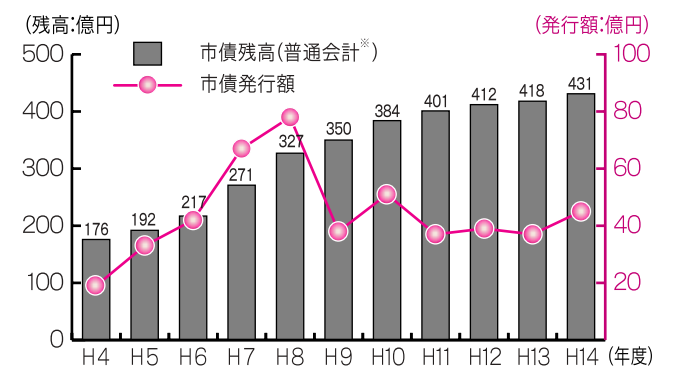
市民1人当たりの市債残高

約40万2千円 (県下8市中2位)

預貯金である基金に対して、その反対の借金(ローン)となるのが市債です。彦根市では、これまで市債という借金をしながら、市民生活に必要な道路や学校を始めとする公共施設を整備してきました。多額の費用を要するこれらの事業は、毎年一定額を返済するローンを組むことで行うことができたのです。

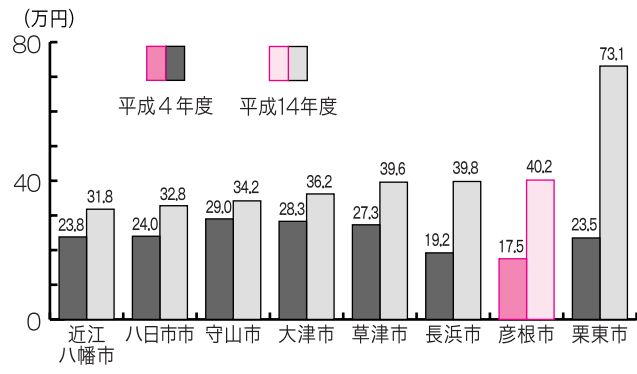
また、これらの施設は、長年にわたって利用できることから、将来施設を利用する子どもたちの世代にも、その費用の一部を負担してもらうことにより、世代間で公平に負担することができま。

グラフ3 市債発行額と市債残高の推移



つけて返済していかなければなりません。借金の中には、国の景気対策などを受けて行ったもので、制度上、国が返済額の一部、または全部を負担してくれるものもあります。しかし、今この借金の返済が、本市の財政にとって非常に大きな負担となっています。

グラフ4 県内8市の市民1人当たりの市債残高



4倍にも増えてしまったこととなります(グラフ4)。
また、毎年度の借入金は減っていないので、借金の総額はさらに増え続けています。しかも、この残高には借金の利息は含まれていないので、実際の返済額はもっと大きくなります。市民1人当たりの市債残高について、県内8市で比較してみると、かつては最も少なかった彦根市ですが、今では2番目に多い状況となっています。

にもなります(グラフ5)。

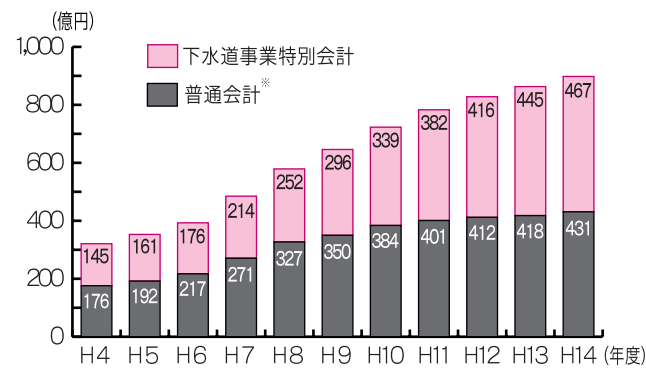
借金をするときには、当然その返済額にも注意してきましたが、市税収入等が減少するなかで、この返済額が市の財政を大きく圧迫しています。5月15日号と今回の2回にわたって、彦根市の財政のうち収入の状況についてお知らせしてきました。現在の彦根市は、市税収入が伸び悩み、国からの財政支援も縮小するなかで、基金も減少し、反対に借入金が増加するという大変厳しい状況です。また、一方では人件費、扶助費などの義務的な経費が増加を続けるなど、今後さらに財源不足が深刻化すると見込まれます。

今回は、歳出の状況がどうなっているのかなどについてお伝えします。

ご意見・ご提案をお寄せください

経営改革推進室または
財政課 FAX 139
8番 Eメール
keiikaikaku@ma.city,
hikone.shiga.jp

グラフ5 下水道事業会計を加えた市債残高の推移



用語解説

普通会計 一般会計と特別会計の一部(公営企業会計や公営企業法の全部または一部を適用している会計を除く)を合算し、会計間の重複などを控除したもの。各地方自治体の財政状況の把握、財政比較などのために用いられる統計上の会計